



松本 茂美 助教  
【地域医療医学センター】

平成 21 年 10 月、岐阜大学女性医師就労支援の会が発足し、早 1 年が経ちました。日頃本会の活動にご協力いただいております皆さまに心よりお礼申し上げます。

私はその会の世話人という縁から、岐阜大学男女共同参画推進室に参加させて頂いております。専門は麻酔科でまだまだ修行の身ですが、若手医師からはちょっと(?)年上の先輩として何かお役に立てることがあればという思いでやっています。この 1 年で感じたことは、大学・大学附属病院勤務という場は多様な職種・部局・立場があり、必要な支援もそれぞれ、さらに個人による感性の違いも少なくないということです。しかし大多数の人は、臨床・研究・学生教育のすべてに携わるという点では共通しています。そうしたがんばっている皆さんに、少しでもふさわしい支援ができるよう活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**かもみーる取材紀行 第 2 回 新潟大学の取り組み**

平成 23 年 2 月 15 日(火)に、本学の男女共同参画室員 2 名と男女共同参画係 1 名が、平成 20 年度文科省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択された新潟大学女性研究者支援室を訪問し、先行事例を視察してきました。

新潟大学の室長から「本事業の 3 年目になり、本事業に無関心であった人からも研究補助員等の照会があり、広く意識が変わってきた。多くの教員が研究補助員の配置による成果を身近で見ることにより、本事業への教員の賛同を得られたのだろう。また、本事業の正念場は 2 年目。1 年目で固めた基礎をもとに、実績を積み上げることが大切。」とのことでした。さらには、本事業終了後の取組・制度の継続を見越した体制作りにも早くから取り掛かることが重要であるとの助言をいただきました。

来年度は事業 2 年目となることから、岐阜大学男女共同参画推進室も、より具体的な取組を進めていきたいと思っております。

- 新潟大学の主な取組**
- ・新大シッターによる保育支援
  - ・ユビキタスリサーチ環境の整備・研究補助者の配置
  - ・人材バンクの整備
  - ・メンターによる支援
  - ・女性大学院生による出前授業
  - ・キャリア・カフェ「雪椿」



新潟大学女性研究者支援室のプレイルーム

**鬼は～外、福は～うち**

平成 23 年 2 月 3 日(木)節分の日、学内保育園「ほほえみ」で豆まきを行いました。多くの子供たちは、やって来た鬼を見て泣いていましたが、勇気を出して、鬼に豆をぶつけて家内(園内)安全を祈りました。

岐阜大学男女共同参画推進室 (人事労務課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>  
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 Tel:058-293-3378 Fax:058-293-3396 E-mail:sankaku@gifu-u.ac.jp  
\*男女共同参画に関するご意見・ご要望は男女共同参画推進室へお願いします。



~ NEWS Letter ~ 9号 2011.3

目次

「特別公開講演会」開催のお知らせ	P1
教育学部共催・地域科学部共催FDを実施しました。	P2
第 2 回出前講義を行いました。	P3
第 4 回女性医師就労支援の会が開催されました。	P3
室員紹介 vol.6	P4
新潟大学の取り組み	P4
保育園で豆まきをしました。	P4

岐阜大学男女共同参画推進室・ネットワーク大学コンソーシアム岐阜共催

**「特別公開講演会」開催のお知らせ**

**男女共同参画の実現をめざして**  
- フランスの実践例から学ぶ -

日時：平成 23 年 4 月 19 日(火)  
14:30 ~ 16:30  
場所：岐阜大学全学共通教育棟  
多目的ホール\*

講師：ジャーナリスト 横田 増生 氏

**「フランスから見た日本の男女共同参画社会の課題」**

フランスは近年ベビーブームです。出生率はめざましい回復を見せており、少子化傾向に悩む日本とは様子を異にしています。フランスで子育てと仕事の両方を体験した講師が、フランス流の男女共同参画の実態を報告します。この報告をヒントにし、ディスカッションを通して、参加者が、日本社会での男女共同参画の課題と可能性を、それぞれの立場で考える機会としたいと思います。

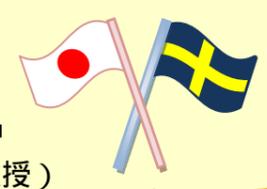
コメント：速水 悟 氏 (岐阜大学工学部教授)  
ゲラン ジル氏 (岐阜大学地域科学部准教授)

後 援：岐阜県・岐阜市

**次回「特別公開講演会」のお知らせ**

男女共同参画の実現をめざして - スウェーデンの実践例から学ぶ -

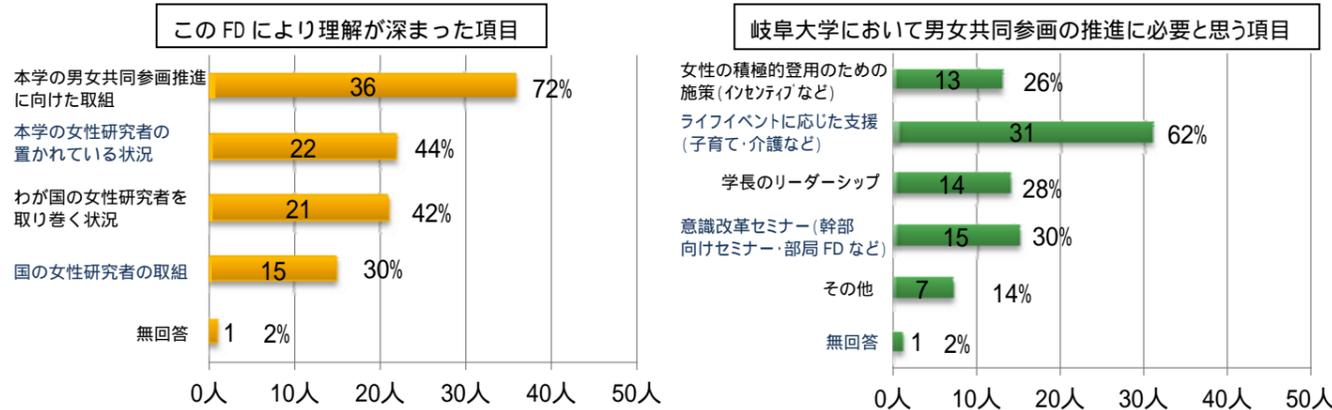
日 時：平成 23 年 7 月 26 日(火)  
テーマ：「スウェーデン：男女平等社会の理念と現実 - 質的平等とは? - 」  
講 師：エルスマリー アンベッケン氏 (関西学院大学人間福祉学部・教授)



## 教育学部共催FDおよび地域科学部共催FDを開催しました。

平成23年2月4日(金)に教育学部大会議室におきまして、男女共同参画推進室・教育学部共催のFD「岐阜大学における男女共同参画の推進に向けて」を開催し、教職員70名の参加がありました。

終了後、出席者の皆さまにアンケートのご協力を頂きましたので、ご紹介いたします。\*アンケート回答人数：50名(複数回答)



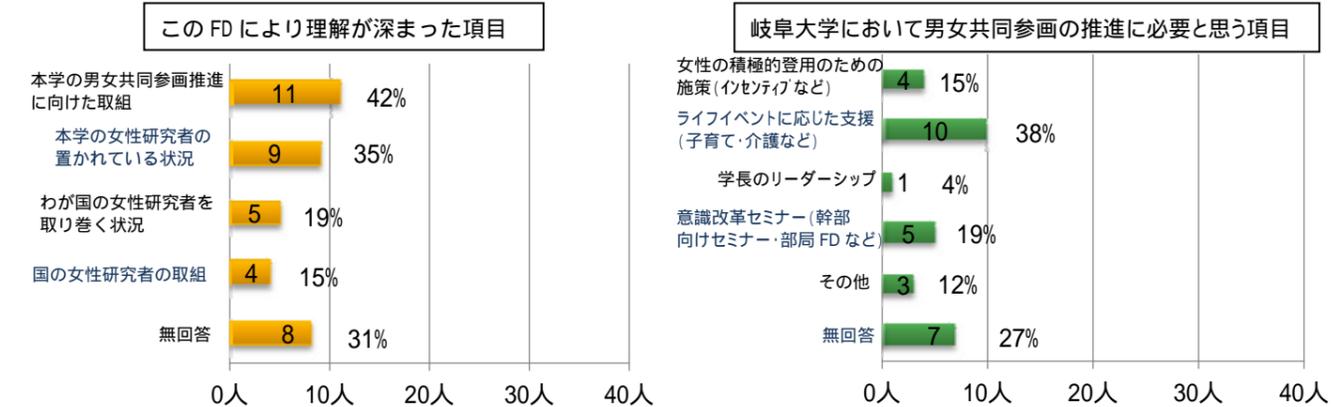
今後FDで取り上げてほしい話題：

- ・男性の育児休暇の促進！介護も含め、男女性研究者支援をお願いします。
- ・女性の働きやすい環境づくりとして、どういうことが取り組まれているのか？保育園などのハコ物でなく、休みの取りやすい勤務時間のフレキシブルな取り方など。例えば、お茶大では9-5時勤務が進められているそうだが、本学ではどうか？他の時間に会議などで束縛されることのないよう配慮されているか？
- ・育メンについて ・女性のみでなく、男性研究者支援も。
- ・女性の文系研究者の養成について
- ・他国での実践例の報告、議論・世界の動向

- ・女性教員の中でも様々な意見があるとは思いますが、他の教員のご意見を知りたいです。大企業(資生堂、キャノン etc)ではもっと手厚い制度が沢山あります。他大学(早稲田 etc)でも、岐阜大学より制度がしっかりしています。早く岐阜大学でも制度が整いますように・・・。
- ・FDなので最低1時間は説明、質疑応答にあてて良かったのではないかと？
- ・教育学部には博士がないから研究者支援は難しいとも思える。社会はもちろん、学部、大学経営の安定が、前提となるが、趣旨は賛同できる。単純に、男女を問わずみんなでより良い社会にできればと思っているので、1つの方策だとも思った。
- ・国の施策のためのFDか、岐大としてはどのようにするのか？施策、採択のためが前面に出てたように思える。採択後のことが問題となると思う。
- ・とにかく何よりも具体的な施策が必要だと感じました。

平成23年3月3日(木)には、地域科学部第1会議室におきまして、男女共同参画推進室・地域科学部共催のFD「岐阜大学における男女共同参画の推進に向けて」を開催し、教職員45名の参加がありました。

アンケートの結果は次の通りです。\*アンケート回答人数：26名(複数回答)



- ・地域科学部では「地域研究入門」の中で、ジェンダーを取り上げていますし、教養の総合科目でも「性」を長くやっています。女性の学生、院生も多いですし、学部独自のFDとしてもいいと思います。
- ・学部生、院生への男女共同参画・ジェンダー教育の現状と課題について
- ・男女 or 女性という視点より、岐阜大での労働条件や待遇改善を参画室もコミットするべきではないか？！
- ・専門によって研究環境、状況が違うと思うので、それぞれについて具体的に分析していただきたい。
- ・男女関わらず「研究者育成」対策を行い、全体の底上げを行うことが結果として女性研究者の増にもつながると思います。大学の取り組み育児を補助する父親にも必要ですし、また研究を指向する男子学生にも意味があると思います。
- ・本学の女性教員の昇進実態に本当に問題があるのか分析してほしい。
- ・昨今の大学院生(特に文系)をめぐる厳しい状況等を総合的に判断した上で考えていくべき。ただ単に女性支援だけを謳うのでは余り説得力がない。

教育学部・地域科学部とも多くのご意見をいただき、紙面に全てを載せることができませんでした。詳しくは男女共同参画推進室ホームページに掲載を予定していますので、そちらをご覧くださいませ幸いです。

## 第2回 「サイエンス夢追い人」育成プロジェクト 出前講義を実施しました。

平成23年2月21日(月)に男女共同参画推進室の松藤淑美特任助教が、岐阜大学教育学部附属中学校の1年生160名を対象に出前講義を実施しました。

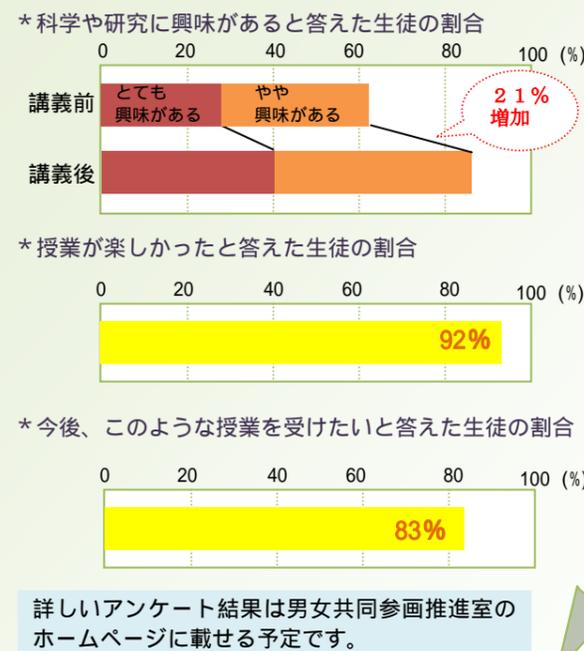
このプロジェクトは、小中高生に身近なロールモデルとなる女性大学院生らが、研究の魅力や歩んできた道を紹介することによって、「サイエンス夢追い人」=「科学者を志す学生」を増やすことを目的に発足し、今回が2回目の開催となります。

今回のテーマは「微生物のチカラ - 酵母のストレス環境への適応メカニズム -」。講義の前半では、研究に焦点をあて、酵母が毒性物質であるアセトアルデヒドのストレスにさらされたとき、どのように適応するのかについて、写真やイラストを用いて中学生にわかりやすく伝えました。講義の後半では、自らの進路選択の経緯について、これまでに抱いた将来の夢、現在の進路を選択することになったきっかけやその時の気持ちについてお話ししました。最後に中学生へのメッセージとして「自分で選んだ道を後悔しないために、今できることに手を抜かない」ということを伝えました。



質疑応答では、生徒たちから多くの質問があり、大好評でした。

### 講義後のアンケート結果



### 受講者の感想(抜粋)

- \* 自分が当たり前のように使ったりしている物は先生のような研究員が頑張っているから、当たり前のように使っていると今日話を聞いて思いました。先生たちがとても努力を重ねている裏の姿を見ることができました。
- \* 私は理科はあまり好きではなくて、どちらかというと嫌いなんだけど、微生物の話はとてもおもしろかったです。今までは微生物なんて全然興味がなかったけど、今回、話を聞いて興味がわきました。
- \* 大学でも修士だったり博士だったり、たくさんあるのだなあと初めて知りました。
- \* ぼくは何になるか何一つ決まっていません。でも、先生の話を聞きながら、それもいいな、あれも、と幅を広げて考えることができました。
- \* 「まず、やってみよう！」という言葉が胸に響きました。
- \* 今回、たくさんのお話を聴いて、自分が変わったような気がします。などなど、A4用紙いっぱい感想等を書いてくれました。また、「酵母と酵素は何が違うんですか？」など質問も数多く寄せられました。
- 附属中1年生の皆さま、関係者の皆さま、どうもありがとうございました。

## 第4回 女性医師就労支援の会を開催しました。

平成23年2月10日(木)医学部大学院講義室にて、岐阜大学医学部・附属病院女性医師就労支援の会(代表：清島真理子教授)が旭川医大皮膚科・山本明美准教授をお招きして「キャリア形成を考えよう」を開催し、43名の参加がありました。中でも学生の参加が24名(内男性11名)と、計画的なキャリア形成を考えるととても良い機会となりました。本学地域医療医学センターの松本茂美先生から専門医制度について説明があった後、本学麻酔科の田辺久美子先生と旭川医大の山本明美先生よりご講演いただき、最後に本学男女共同参画推進室の取組の現状について林正子室長から説明がありました。



山本明美先生(旭川医大)



田辺久美子先生



松本茂美先生